

平成27年度 清水町教育委員会の活動状況に関する 点検・評価報告書

点検・評価の概要

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、毎年、事務の管理・執行の状況について点検・評価を行い、その報告書を議会に提出するとともに公表することが義務付けられています。

また、その際、客観性を確保する観点から、教育委員会以外の学識経験者による知見の活用を行うこととなっています。

清水町教育委員会としては、この点検・評価を、本町の教育資源を有効活用し効果的な教育行政の推進を図るための確認の機会であると捉えるとともに、住民への説明責任を果たすことができるように進めていきます。

評価対象は、年度当初に示す教育行政執行方針に基づき実施する事務事業のうち、本町の教育行政として特色ある事務事業としました。

また、点検・評価報告書の作成にあたっては、選定した事務事業の推進状況を自己評価し、外部知見の活用として学識経験者※から意見をいただき、今後の教育行政に活かすこととしています。

なお、報告書は毎年度議会へ提出し、公表します。

※学識経験者として、北海道教育庁十勝教育局及び前教育委員会委員長職務代理者からそれぞれご意見をいただきました。

点検・評価した項目

清水町の教育行政の中で特色ある事務事業として次の8項目を選定しました。

- ① 町民総ぐるみの“しみず「教育の四季」”の推進
- ② 全国学力・学習状況調査の結果を受けての取組
- ③ 就学前教育を重視した幼保・小連携教育の推進
- ④ 小学校における低学年からの外国語（英語）活動
- ⑤ 「おいしい笑顔が見える給食」と「地産地消」を意識した食育の取組
- ⑥ 生活習慣を身につける生活リズム向上推進事業
- ⑦ 地域の教育力を活用する生涯学習ボランティア登録派遣事業
- ⑧ 子どもたちへの読み聞かせを中心とした図書館ボランティアの活動

① 町民総ぐるみの“しみず「教育の四季」”の推進

現状と成果

清水町の教育理念「心響」～打てば響く 心に響く～を基軸として、「心を通わせ、互いに響き合う感性豊かな教育の推進」を目指し、実践指標“しみず「教育の四季」”を平成18年4月に宣言してから10年になりました。以来、家庭・学校・地域が連携して、「あいさつ、返事、後片付け」「早寝、早起き、朝ごはん」など、主として子どもたちの基本的な生活習慣の定着を図るための取組を展開してきました。本年度についても、4月に推進協議会を開催し、前年度の実践の成果と課題を踏まえた中で、町民が一丸となって子どもたちを守り育てる“しみず「教育の四季」”の取組を推進しました。

本年度の主な具体的な取組としては次のとおりです。

- ①「教育の四季」リーフレットを町内小中学校及び保育所・幼稚園を通じて家庭に配布する。
- ②中高連携としてのサイエンス・サマースクールを開催する。
- ③第9回「子どもフォーラム」を開催し、各学校の児童会・生徒会での“しみず「教育の四季」”の取組の発表と「スマートフォン(携帯)使用の決まり」について参加者を含めて意見交流を行う。
- ④町内各保育所の保護者参観日に「教育の四季」の趣旨や取組について説明し、就学前教育の重要性について周知する。
- ⑤町内保育所、幼稚園、小中高校からの「ちょっといい話」を集約し、各所属所へ配布するとともに町のホームページに掲載し、清水町の幼保小中高の取組を積極的に発信する。
- ⑥しみず「教育の四季」宣言10年記念事業として「町ぐるみの教育推進セミナー」を開催する。

今後の課題

- ・“しみず「教育の四季」”を町民総ぐるみの教育活動としていかに発展させていくか、特に地域住民の意識の高揚を図ることが重要です。
- ・地域・学校・家庭が互いに協力し合い、子どもたちを守り育てるという共通の目標と一連の活動の評価と情報をみんなで共有していくことが必要です。
- ・子どもたちの実態として①家庭での読書の時間が少ない②家庭学習の時間が少ない③テレビ・ゲームの時間が多いという傾向が見られます。家庭学習の習慣化や読書の時間の確保が必要です。
- ・町内児童生徒のスマホ(携帯)の所持率が高まり、それに伴い危険性へのリスクも高まるため、早急な対策が必要です。

今後の対応策

- ・“しみず「教育の四季」”の取組の充実・発展と町民への浸透
- 各町内会組織及び各種団体等への積極的な働き掛けを行うなど、町民全体への浸透を図る取組を引き続き展開します。「子どもフォーラム」を開催し、広く町民の参加を募ります。
- ・共通の目標と評価の共有化
- 町内の幼稚園・保育所、小・中・高校の取組をHP等で積極的に発信していきます。
- ・しみず「読書の日」(毎月19日)の啓発
- 学校や図書館、読み聞かせボランティアと連携し、読書環境の更なる充実に努めます。
- ・ソーシャルメディアのガイドラインの作成
- 町研究所のスマホに関するアンケート結果や「子どもフォーラム」の意見交流を踏まえて、スマホ(携帯)を含めたソーシャルメディアのガイドラインを作成します。

学識経験者の意見

「子どもフォーラム」の継続開催や町ぐるみで行うソーシャルメディアのガイドラインの作成の取組など、今日的な教育課題の解決を目指した実効性のある取組として評価できます。今後は、地域・学校・家庭が互いに協力し合い、子どもたちを守り育てるといった共通目標の下、町民が一体となった取組の一層の充実を期待します。

“しみず「教育の四季」”を宣言して以来町民層ぐるみで、時代を切り開く子どもたちの基本的な生活習慣の定着を図り「生きる力」の基礎を養っていることは高く評価できます。今後は地域・家庭・学校が一体となって子育てに関する課題を共有するなど、子どもを守り育てる基軸の実践指標“しみず「教育の四季」”の一層の充実を期待します。

② 全国学力・学習状況調査の結果を受けての取組

現状と成果

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、小学6年生及び中学3年生の全児童生徒を対象とする全国学力・学習状況調査が国語、算数・数学、理科の3教科で、4月21日に清水町の全小中学校4校で実施されました。

文部科学省は8月25日にその調査結果を公表しましたが、本町における教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）の平均正答率は、小学校、中学校ともに全国平均を上回りました。多くの児童・生徒が概ね学習内容を理解し、全体的に基礎・基本の定着が図られ、それを活用することも身に付いているようです。

また、生活習慣や学習環境等に関する調査では、学習習慣、言語活動、読解力、自尊感情、各教科への関心が全国に比べ上回っている傾向にありました。

小学校、中学校ともに各教科への関心の高さや、小学校における規範意識の高まりは、これまで取り組んできた小学校低学年の少人数学級や“しみず「教育の四季」”などの実践の成果と考えています。

これらの調査結果を分析し、学校における指導の工夫・改善等の視点や家庭・学校・地域が連携して学習環境の充実に向けた実践例を提示にした学力向上支援プランを教育委員会として作成し、町のホームページで公表しました。

各学校に学力向上支援プランを示し、各校においても調査結果を生かした今後の指導についての具体的方策をまとめ、保護者にお伝えするとともに、放課後や夏冬休みの学習機会の確保など学習支援の工夫をしたところです。

今後の課題

- ・本調査で測定できるのは、一部の学年と学力の一部ではありますが、調査結果を受けて各学校で学力・学習状況を把握・分析して、教育の成果と課題を継続的に検証し、学習指導の工夫・改善に役立てていく必要があります。
- ・家庭学習の確立や学習環境の充実など、学校以外での学習活動について充実を図っていくことが大切です。
- ・調査結果から明らかになった課題を踏まえ、今後も粘り強く、各学校、家庭、地域において子どもたちの学力向上のための効果的な取組を意欲的に充実していくことが大切です。

今後の対応策

- ・各学校との連携を図るとともに、小学校低学年における少人数学級の継続、幼保・小連携を重視した就学前教育の充実を推進し、児童生徒の学習意欲を高めるための学校の取組を支援していきます。
- ・規範意識の向上による学習習慣の確立や、基本的な生活習慣の育成を図り、学びに向かう姿勢の向上のため、“しみず「教育の四季」”の普及啓発を推進します。
- ・教員の資質向上については、学校教育課教育指導幹の学校訪問、外部講師の活用、十勝教育局指導主事派遣の要請、地域の人材による学習指導に関する支援体制を工夫していきます。

学識経験者の意見

学力向上支援プランを教育委員会として作成し、学校に示すとともに、ホームページで保護者や地域に公表し、家庭で取り組める具体的な方策を示すことなどにより、地域・家庭・学校が成果と課題を共有し、一体となって学力向上に取り組む体制づくりを推進しており評価できます。

今後は、義務教育の9年間を見通し、調査結果の分析を教育課程の改善に生かすとともに、地域・家庭・学校が一体となった実効性ある取組の充実を期待します。

学力向上支援プランを学校に示し、学校においても具体的な方策をまとめるなど学力向上に向けて組織的に取り組んでいることは評価できます。

今後、さらに調査結果を踏まえて家庭・学校・地域と課題や改善策を共有し、さらにも上を目指した学力向上の取組を期待いたします。

③ 就学前教育を重視した幼保・小連携教育の推進

現状と成果

小学校低学年における生活集団と学習集団の一体化の中で規範意識や躰、マナーの日常化を図るきめ細かな学習環境を整備するため、平成15年度より構造改革特区を活用し20人程度の少人数学級を実施したところですが、実施に当たっての理念の延長線上に、就学前教育の充実の必要性を強く感じられたところです。

このことから、町内の幼稚園・保育所と小学校のなめらかな接続を図るために、①教育課程と保育計画とのつながり、②教師と保育士との連携と研修、③幼児と児童の学びと遊びの交流などの視点から調査・研究を進めました。

調査・研究は、平成17年度から2ヵ年、道教委の委託を受けて、理念と実践とを指導機関の協力のもと進め、平成19年度以降は、2年間の調査研究事業の成果と課題を踏まえ、無理のない範囲で幼保・小のなめらかな接続を図る取組を継続実施しています。

具体的な取組は、清水地区と御影地区の2ブロックに連携推進会議を設け、幼児と児童の交流はもちろんのこと、教師と保育士との交流及び研修を通して互いに指導・援助の違いなどの共通理解を図り、発達や学びの連続性を重視した活動を行っています。

平成27年度においても、5月の協議会開催を皮切りに、ブロックごとの推進の協議、保育・授業参観、年長児と児童の交流、職員間の交流、2ブロック合同研修会の開催など昨年同様、積極的に実施しました。

今後の課題

- ・ 基本的な生活習慣や思いやりの心を育む教育活動を幼稚園・保育所、小学校が同じ目線で一貫した取組をしていくことが大切であり、教師と保育士との間の情報交流や相互理解を図るためにも幼保・小連携の継続的な取組が求められています。そのために、連携の取組を継続することの重要性を全体で認識し、交流活動のねらいや方法について改善を重ねていく必要があります。
- ・ 連携を図るためには、保護者や地域の理解や協力を広めることも必要となります。

今後の対応策

- ・ 幼保・小が無理なく継続することが大切ですので、清水町幼保・小連携協議会(=全体会議)において連携の柱となる骨格を協議・確認し、実践面の取組は各ブロック推進会議で担当教員を中心に推進していきます。
- ・ 幼稚園・保育所でのアプローチカリキュラムと小学校でのスタートカリキュラムを実践する中で、幼保と小の相互の理解を深め、カリキュラムの充実を図ります。
- ・ 幼保・小連携推進会議の便り「つらなり」を町内配布し、保護者や地域への理解啓発を行います。

学識経験者の意見

子ども同士の交流活動や教員の合同研修会の開催等、円滑な接続に資する取組が、地域の子どもの地域で育てる活動に発展しており評価できます。

今後は、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの充実を図るとともに、保護者や地域に対する普及・啓発活動を推進し、幼保・小の連携に向けた取組の一層の充実を期待します。

幼保・小の連携は子どもの望ましい成長・発達を促す教育環境として重要だと思います。アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの充実が図られるなど事業の定着が見られます。

また、教員・保育士などの関係者をはじめ、保護者にも相互交流の理解が深まり子どもたちの教育環境の充実が図られていることは素晴らしいと思います。

④ 小学校における低学年からの外国語（英語）活動

現状と成果

清水町の子どもたちが大人になったときに、外国語（英語）で日常のコミュニケーションができるようにするために、外国語や外国人の存在を柔軟に受け入れることができる小学校低・中学年（1～4年生）の外国語活動を昨年度から実施しています。

子どものもつ好奇心を捉え、子どもたちが主体的に活動に参加することが大切と考え、何よりも「英語が好き」「活動が楽しい」と子どもたちが思える小学校低学年からの外国語活動を目指して実施してきました。

1～2年生については、活動の柱として主に歌やゲームを行い、英語に触れること、助手として入る外国人（英語指導助手）に親しむ活動を行いました。

3～4年生については、英語に慣れることを活動の柱に、挨拶や単語の理解などをおこない、外国語による日常のコミュニケーションを中心に行いました。

年間授業時間数については、1年生：10時間、2年生：12時間、3年生：15時間、4年生：20時間を目途に活動を実施しました。

基本的に担任が指導しますが、指導の内容をより充実させるため、補助として英語活動講師、英語指導助手が加わり活動を実施しています。

保育所、幼稚園でも平成25年10月から英語活動を実施しており、小学校での英語活動について1年生でも違和感なく参加できています。

担任教諭及び講師等の指導力の向上のため、北海道教育委員会主催の研修会に、小学校教諭1名、英語活動講師1名、英語指導助手2名が受講しました。

年度末に、関係者が一同に会し英語活動の検証を行いました。

今後の課題

- ・年度末会議において、各学年の年間活動内容については概ね妥当であると確認されたが、子どもたちが英語を楽しみながら習得できるよう今後も担任教諭、英語講師、AETと連携して内容の充実を図ることが必要である。
- ・当日の活動内容の流れや目当てなどについて、英語活動講師、AETと担任教諭が共有する事前打ち合わせの時間確保の必要がある。
- ・中学校の英語の授業との連続性について研究する必要がある。

今後の対応策

- ・担任教諭、英語活動講師、AETが連携して活動内容を共有しながら、英語を学ぶことが楽しいと思える活動内容の充実を進めます。
- ・担任教諭、英語活動講師、AETの指導力の向上に向けて、研修会への積極的な参加を推進します。
- ・保育所、幼稚園でも、小学校と同じ英語活動講師、英語指導助手が指導を行っているので、さらに一貫した活動内容を進めます。

学識経験者の意見

外国語に慣れ親しむ活動からスモールステップでコミュニケーション活動を積み重ねるとともに、教員の指導力向上に向けた研修の機会の充実を図っており評価できます。今後は、学習の目当てを達成できるようALTや英語活動講師が指導する学習内容の検証や、評価の在り方に係る研修の一層の充実を期待します。

低学年から高学年に向けて段階に応じた活動内容を設定し、英語に触れることの「楽しさ」や「素晴らしさ」を感じさせながら行われており、良い結果がでています。また、担任や英語活動講師、AETが連携して、より充実した内容にするため努力しており評価できます。今後は、中学校の外国語活動へのより滑らかな接続を意識した取組を期待します。

⑤ 「おいしい笑顔が見える給食」と「地産地消」を意識した食育の取組

現状と成果

食育については、「おいしい笑顔が見える給食」と「考える給食」を合言葉に、毎月発行の「給食だより」で、給食を通して児童生徒に正しい食事の取り方や望ましい食習慣を身に付けさせるなど、食に関する指導の充実を図るとともに、地元産の食材を多く利用したメニューを取り入れています。

また、ボランティア団体の「子どもの食育を考える研究会プアパ」との連携により、給食センターに隣接する試験ほ場で栽培した大豆を小学校児童の給食センター見学の際に収穫体験を行い、調理後に給食として提供しました。

なお、本町独自給食献立として、次の取組を行っています。

①十勝清水の恵み給食～清水産の食材を中心にした献立とすることで、町内ではどのような食べ物が生産、加工・販売されているかを理解することに役立っています。

②全国学校給食週間特別献立～清水小学校6年生の児童が考えた献立を、全国学校給食週間の一環として取り組み、具現化しました。学校給食嗜好調査を行い、リクエスト献立として給食提供することにより、子どもたちの食への関心も高まっています。

③バイキング給食～小学校6年生、中学校3年生の卒業を祝うとともに、食品の栄養を理解し、バランスの取れた食事を選択する能力を身につけるように実施していますが、児童・生徒からは継続を待ち望まれています。

今後の課題

- ・共同調理施設は、19年を経過し調理機器の不具合や器具・備品の傷みが激しくなっており、衛生管理面からも適切に設備や備品の更新を図っていく必要があります。
- ・学校給食における異物混入が発生し、児童・生徒への健康被害は無かったものの、食物アレルギーを含め、従来以上に安全で安心な給食提供が求められています。これらの防止対策として危機管理意識を高めた適切な対応が必要です。

今後の対応策

- ・「学校給食における危機管理マニュアル」に基づく点検等を行い、異物混入及び食中毒の発生防止対策を徹底します。
- ・地産地消の推進のため地元農業者等の連携を継続するとともに、地場産物を活用した給食を提供し、町内生産者への理解につながるよう児童生徒の興味や関心を高め、生産者への感謝の心を養います。
- ・独自給食献立を継続します。

学識経験者の意見

町独自の「学校給食における危機管理マニュアル」を活用した安心・安全な学校給食の提供に努めるとともに、「給食だより」を通して、食に関する指導の充実を図っており評価できます。

今後は、地産地消の取組を一層、推進するとともに、危機管理意識を高め、学校給食への異物混入などを防止する取組の一層の充実を期待します。

地産地消の推進で地元産食材の生産・加工・販売等の理解と食に関する感謝の気持ちを育てていると思います。また、給食の提供にも工夫を凝らし、食に対する関心を高める取組が行われており評価できます。

これからも給食が安心・安全で望ましい食習慣を身につける一助となることを期待します。

⑥ 生活習慣を身につける生活リズム向上推進事業

現状と成果

家庭のライフスタイルの変化と、児童期の学校外・放課後活動の活発化に伴い、児童は規則正しい生活を過ごすことが難しい状況にあります。一方、生活リズムの整っている子どもほど、道德観や正義感、学力が高い傾向にあるとの調査結果が出ています。

この様なことから、児童期における基本的な生活習慣の大切さを保護者に理解してもらうことを目的に事業を実施しています。

本年度は9回目の開催となり、昨年度から継続して参加した5名に8名が加わって、清水小学校4名、御影小学校9名の13名で実施しました。

指導者は、職員6名と協力スタッフとして、町女性団体連絡協議会、町更生保護女性会より22名のご協力を頂き運営を行いました。

子どもたちはモデル的生活リズムを送ることにより、普段体験することの少ない家事全般を体験し生活することの苦勞と父母のありがたさを実感したようです。

合宿生活では継続して参加した児童が、初めて参加する児童の良き模範となり、合宿の過ごし方に対する知識と経験を伝達するとともに、昨年度の事業を追体験することで更なる成果が得られたと感じました。

また、保護者へのアンケート調査からは、日常の生活リズムと相違があまりなかったとの感想がある一方、自らの力で生活を送ることにより、参加した子どもが周囲の大人（親等）の大切さを実感している様子が見られるとの声が寄せられ、家庭教育事業の成果に加えて少年教育としての効果が見られました。

今後の課題

- ・通学合宿事業の目的はほぼ達成されているため、他の家庭教育事業への切り替えが望ましいと考えます。
- ・一方、事業は保護者や社会教育委員、協力団体からの評価が高く、事業の継続が求められています。

今後の対応策

- ・より多様な児童が参加するよう、引き続き学校へ協力を仰ぐとともに保護者の理解と子どもの生活リズムの重要性をアピールする啓発を継続します。
- ・本事業を当面継続しつつ、生活リズムの啓発に加えて、家庭内における児童のメディアとの接し方について、啓発していきます。

学識経験者の意見

子どもたちが、一定の期間親元を離れ、集団で宿泊生活や生活体験活動を継続的に取り組むことにより、基本的な生活習慣・生活リズムを身につけるとともに思いやりの心や自主性、協調性が養われ、保護者においても生活リズムに関する意識が高まってきており評価できます。

今後は、基本的な生活習慣・生活リズムを身につける各種活動とともに、道德心や正義感、規範意識を高めていけるよう、協力団体やこれまでに参加した子どもたちがリーダー及びスタッフの一員として参加したり、他部局や学校等とも連携したりして体験活動等に取り組んで行くことを期待します。

ライフスタイルの変化で子どもの生活リズムが崩れ、結果として規範意識の欠如や学力向上心の希薄など望ましくない方向にあります。参加した子どもの生活体験や生活リズムに対する意識の向上と共に、保護者の生活リズムへの理解が深まるなど事業の成果が上がっていると思います。

今後、参加した子どもが経験や知識を広め、より多様な児童が参加するようになることを期待します。

⑦ 地域の教育力を活用する生涯学習ボランティア登録派遣事業

現状と成果

町民のボランティア意欲をまちづくりや生涯学習活動に活かす「生涯学習ボランティア登録・派遣事業」を平成14年度から実施しています。この事業は、仕事や趣味で得た知識や技術を町民の学習活動に還元したいという方や、教育事業や教育施設に対して貢献したいという方を登録し、学習講師や活動支援を求める町内の団体・組織に派遣します。この学習成果の還元と人と人を結びつけることで、互いに学び合える町づくりを促進することをねらいとしています。

社会教育分野での派遣要請は僅少ですが、芸術分野等の専門性が求められるボランティアに対しての要請は引き続きあります。

登録者は、芸術文化やスポーツ、教養などの分野で56名おり、学校教育活動に対する支援者が多くを占めています。

学校の場合での書道ボランティア活動では、その年数や回数、人数が多いため、今年はユニフォームとなるエプロンを用意し、活動者の意欲と一体感を高めました。

これは、生涯学習ボランティア事業による町民の学習活動に対する支援の仕組みを構築した成果であり、協働の町づくりが着実に推進されている表れであります。

今後の課題

- ・継続したボランティア活動を活性化するためには、活動者や学校等の負担軽減と活動における調整者の配置と手当てが必要です。
- ・登録ボランティアの活動の場を開拓する必要があります。

今後の対応策

- ・ボランティア意識を高めるために、活動が社会から評価される広報を継続します。
- ・ボランティア活動の活発化に向けて、職員による調整を継続します。
- ・ボランティアが負担している消耗品等を公費で補います。

学識経験者の意見

登録ボランティアが、学んだ成果を学校教育や社会教育の場において還元する機会が増えたことにより、ボランティアをはじめ学習者も学びに対する意識、意欲が高まってきており評価できます。

今後は、生涯学習ボランティアの活動を住民に広く周知し、多く利用してもらえるよう広報活動を工夫するとともに、登録ボランティアの方が、住民の学習やまちづくりなどの活動の中でいきいきと活躍できる場づくりや活動しやすい環境づくりに取り組んで行くことを期待します。

地域の教育力を学校や町民の学習活動に取り入れ、学習したい人と持っている知識、技能を還元できる人と結び付けるなど、学習活動に対する支援が構築されてきており評価できます。

今後、広報などで積極的に本事業の成果を発信するなどボランティア活動への参加意欲を喚起すると共に、諸課題の解決に努力して、ボランティア活動が一層活発化し、互いに学びあえる協働の町づくりが着実に前進することを期待します。

⑧ 子どもたちへの読み聞かせを中心とした図書館ボランティアの活動

現状と成果

図書館の読み聞かせボランティアとして平成4年に結成された『五月会』の会員は現在5名で、毎月第2、第4土曜日に図書館で行うお話し会のほか、小学校・幼稚園・保育所での講演依頼に応じており、安定した活動をしています。

7月、12月に行った特別講演は、今年度も小学生や清水高校ボランティア部、ALTのアシユリー講師の応援参加があるなどボランティアも充実していました。(平成27年度お話し会(12月末現在)16回開催、延べ378名参加)

今年度は、新たな読み手の育成を図るために開催している読み手育成講座に五月会を講師として迎え、実演を目標とした内容で講座を行いました。参加者5名の内2名が実際に五月会と共に定例お話し会で実演することになり、また講座内で行ったアンケートでは、「機会があればお話し会に読み手として参加を考えていきたい」という回答もあり、ボランティア活動への潜在的なニーズはあると考えられます。

今後の課題

- ・『五月会』は安定した活動をしていますますが、会員の固定化、高齢化の解消には至っていません。現在読み手育成講座を開催していますが、講座参加者が実際に活動する場の提供をいかに広げるかが課題です。

今後の対応策

- ・五月会には引き続き、読み聞かせ用の資料・情報提供などの活動支援を行います。
- ・新たな読み手の育成につながる講座や活動の場を継続して行うことで、潜在ボランティアの開拓を行います。

学識経験者の意見

図書館の読み聞かせボランティアの活動に、小学生や高校生、ALTとの連携、協力により、安定した子どもの読書活動を推進する取組が行われており、評価できます。

今後は、保健福祉等の他部局や学校と連携して、地域住民や保護者に各種活動の情報を発信したり、ボランティアの育成・養成講座への呼びかけを行ったりすることにより、潜在ボランティアを開拓するなど、人材確保に取り組んで行く事を期待します。

小学校や清水高校ボランティア部、ALTによる応援参加の特別講演が行われたり、読み手育成講座を開催して新たな読み手を育てるなど、活動の充実を図る努力が見られ評価できます。

この活動によって図書館の雰囲気も明るくなり、利用する人も増えるのではないかと思います。